

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	分かりやすい事業所独自の理念を掲げ支援の仕方を明記している	○	地域密着型のサービスとして学習しながら、分かりやすい理念への見直しを図る
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアプラン等の立案等に対し、常に理念を確かめながら実施できるように取り組んでいる。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの入口に理念を掲げている。運営推進会議等での説明をおこなっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩をしている際に、挨拶をしたり、立ち寄りして気軽に交流を楽しんでいる。又、近所の方が野菜を届けてくださることも頻回にある		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設行事等への参加の依頼等はしているが、地域への行事等への参加は、まだ実施できていない。	○	自治会への参加、地域行事への参加をはじめ施設の広報を配布する等して係わり作りに、努めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設のデイサービスでの一人暮らしの方への昼食の提供等に取り組んでいる。また地域のシルバーさんの受け入れを実施している。	○	今後必要とされるニーズや情報を入手し、認知症に関する勉強会や、ボランティア等の受け入れを実施していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をする上で、日頃のケアを振り返り、常に利用者の立場にたった目線を心掛けている。	○	改善計画も常に職員とともに考えていける体制をつくりたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者へのサービスの実際や取り組み、行事等について報告している。	○	報告事項だけでなく、今後事前に議題設定をおこない、地域やご家族からの要望事項等の検討も実施していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	情報提供や相談事項など、常に連携をとれる体制を心掛けている。	○	公民館活動を通じてグループホームを理解してもらおうような試みをしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状で必要としている入居者はおられないが、今後のためにも勉強会は必要と考えている。	○	勉強会が実施できる体制をつくりたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の資料を回覧している。防止の強化のためにも勉強会は必要と考えている。	○	勉強会が実施できる体制をつくりたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>事前説明の上に、重要事項等でもわかりやすい説明を心掛け、理解していただけるよう心掛けている。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>いつでも気軽に、話して頂ける体制づくりを心掛けている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>毎月、お便りで個人別に様子を知らせるため、定期便を発送している。</p>	○	プラバシー、個人情報保護に関しての同意の上で、写真なども送って、日々の行事等を目で楽しんで頂く工夫をしていく
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>家族の面会も多く、連絡を密にするよう配慮している。</p>	○	面接等の聞き取りや、実状に合わせた工夫をしていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>定期的に全体会議を行い、意見を出せるようにしている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>看取りを実施するための、職員の確保や、食事介助等に要する勤務の調整や補助を実施している。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>必要に応じ取り組んでいるが、管理者の交代が度重なり、利用者への配慮が欠けていたように思われる。</p>	○	離職率の低下に取り組み、問題意識をもって、理想とするグループホームの運営に取り組みたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>育成するための努力はしているが、体制的に勉強会や、外部への研修への参加が難しい状況にある。</p>	○	<p>研修計画をたて、常に資質の向上に向けた職員教育をしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム部会での取り組みに参加することで、違う目線でのサービスの向上に取り組んだり、相互間での意見交換ができています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>全体会議への参加や、環境整備への取り組みも自ら積極的にこなしている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>情報収集に努めるとともに、自らの現場へ入り、把握できるように取り組んでいる。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族等の要望は、事前に聞くよう努力しているが、本人の意向や要望を取り込む努力が必要と思われる。</p>	○	<p>相談開始時点からの記録の整備や、事前面接の工夫等の検討をしたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族等の意見の集約に努めてはいるが、記録の整備が必要と思われる。</p>	○	<p>相談開始時点からの記録の整備や、事前面接の工夫等の検討をしたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの申し込みに応じる場合が多いため、他サービスへの紹介までは至っていない。	○	今後は居宅との連携に努め、他サービスの把握や状況等も考慮しながら、協力体制を構築したい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ゆっくりホームに馴染んで頂くように家族と相談しながら工夫している。また、併設のデイサービスの利用での様子を考慮したり、交流をしたりしながら慣れて頂けるような取り組みを行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物をたたんだり配ったりして下さる方・包丁研ぎをして下さる方・本将棋を教えて下さる方等様々で喜怒哀楽を共にしている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密にして、一緒に本人を支えている。また、食事介助の必要な利用者に関して、家族の介助等の協力を得ながら、共に支えているという実感を得られている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	会いに来てくださると一緒にお茶を飲んでいただいたり、希望に応じて、外出されることもある。また、いつでも外出や外泊、面会に応じられるように配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご夫婦での関係が維持できるよう、デイサービスを利用してもらいいっしょに過ごせる時間をできるだけつくるように配慮したり、面会等の受け入れ時にゆっくりお話ができる場所を提供するなどしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々のプライバシーを尊重しながら、共同生活が維持できるように、役割分担や居場所の確保に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	随時、対応できるよう連絡先をもち、いつでも相談体制にあることを都度説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の援助の中で、思いや希望を言える体制をもち、できるだけご自分で選べたり、したいことに対する援助を優先的に考える援助に心掛けている。	○	利用者本意の援助に繋がる様、認知症の勉強会を実施し、思いをくみ取る援助を構築していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員間での情報のやり取りを密にし、介護計画に反映させるよう努力している。	○	情報収集したものが、サービス利用に効果的に反映できるよう、アセスメントの見直しや記録類を整備したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間での情報のやり取りを密にし、介護計画に反映させるよう努力している。	○	情報収集したものが、サービス利用に効果的に反映できるよう、アセスメントの見直しや記録類を整備したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間での情報のやり取りを密にし、介護計画に反映させるよう努力している。	○	現状では、職員間での話し合いにとどまっているため、今後はご家族やご本人もいっしょにつくる計画を立案したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しが充分でないと感じている。	○	現状では、職員間での話し合いにとどまっているため、今後はご家族やご本人もいっしょにつくる計画を立案したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での情報のやり取りを密にし、介護計画に反映させるよう努力している。	○	情報収集したものが、サービス利用に効果的に反映できるよう、アセスメントの見直しや記録類を整備したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その都度、いろいろな要望に対応できる支援を心掛けている。(受診・往診対応や外出支援など)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向により、施設内のデーサービス対応の3B体操や大正琴の音楽会に参加していただいている。又、ボランティアの方と楽しく過ごされることもある	○	地域密着型のサービスとして、まず消防や警察との連携に努め、地域の方との協力体制を構築したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族からの申し込みに応じる場合が多いため、他サービスへの紹介までは至っていない。	○	今後は居宅との連携に努め、他サービスの把握や状況等も考慮しながら、協力体制を構築したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状で必要とされているかたはいないが、必要となったときに的確にケアマネジメント体制がもてるようにしたい。	○	適宜、事例などを検討しながら勉強会を実施したい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族やご本人と相談しながら、連携のとれる主治医の協力を得られる体制づくりにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要のあるかたは、専門医に受診してもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員との話し合いや協議また、医療機関との連携を図り健康な生活が維持できるよう努力していれう。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	できるだけ予防に努めることに努力し、入院された場合には、情報交換ができるよう努力している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期には、家族もケアチームの一員であることを全員が理解し、かかりつけ医や関係医と共に連携してお世話している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	マニュアルを整備し、医療ニーズに対して、介護職員としてのあり方を認識し、できないことへの協力や連携を看護師や医師に依頼できる体制を整え、家族にも協力してもらっている。	○	医療行為はできないにしても、必要な知識を勉強していける体制を構築したい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に伴う混乱が極力少なくできるよう話し合いや、環境整備に留意している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>マニュアルを整備し、プライバシーを守る意味を理解し、日々の援助に心掛けている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>日々の援助の中で、思いや希望を言える体制をもち、できるだけ自分で選べたり、したいことに対する援助を優先的に考える援助に心掛けている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>散歩に出たい方には、その都度付き添い、家族のお見舞いに病院へ行きたい方にはその都度付き添って出かけている。希望に添った支援をしている</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>理容美容はハッピー号を利用している。又、希望に応じて行きつけの店に御連れしている方もある</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>現状では、準備等のできる体制がなされておらず工夫が必要と思われる。</p>	○	まず出来ることからの取り組みや、食事をいっしょに食べる等の改善を実施したい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>ホーム内での飲酒は禁止しており、納得していただいている。が、外食時には体調に配慮しながら、本人の希望に添っている。タバコは職員管理しているが、希望に応じて所定の場所で楽しめる。おやつも希望に応じて楽しんでいただいている</p>	○	で切る限り禁止事項の廃止に取り組む体制にしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に応じた、排泄誘導の仕方や、全個室にトイレを完備している利点を生かした援助を心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望や状況に応じた時間帯に入浴できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の自由を尊重し、気持ちよく休息したり眠ったりしていただいている		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸の好きな方への材料提供や洗濯物たたみ等の役割分担や、運動したい方へのサービス提供など、楽しみに繋がる支援に心掛けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの管理はしているが、希望に応じて、自由に使える支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて、散歩に同行したり、敷地内は自由に出入りができるような見守りの工夫をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の行事に外出・ドライブを予定し実行している。	○	家族といっしょに外出ができる機会を増やしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など希望に応じて利用出来る。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	施設全体が夜間以外は施錠せず、いつでも気楽に訪問でき、訪問時にゆっくり話すことができる場所を提供している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の禁止事項を理解しており、今後も身体拘束をしないケアを実施する。	○	新入職員の研修等の整備をすすめたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・玄関には施錠せず、いつでも庭へ出かけられる。又、散歩を希望されるときはいつでも職員が同行している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で絶えず情報を共有しており、目配り気配りし事故防止に努めている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	常に誰かが見守る勤務体制をもち、基本的には排除する方針にはしていない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを整備し、状況に応じその都度指導をしている。	○	ヒヤリハットなどを活用し、事故防止の徹底のため勉強会を実施したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応マニュアルはあるが、定期的な訓練までには行なっていない	○	消防署等と連携し、定期的な訓練ができるように検討する
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備えての訓練は行なっているが、地域の人々の協力を得られるような働きまでには行なっていない	○	地域住民の協力を得られるような働きかけを検討する
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その都度、ご家族には説明しご理解いただけるように努力している。	○	特に、転倒に関するリスクの説明を今後は具体的に説明していきたい。(自由と安全意識に対して)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックをしていて、絶えず情報は共有している。又、看護師と協議し、体調の変化・異変には速やかに対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様薬一覧ファイルがあり、職員はいつでも確認できる。又、服薬支援、症状の変化の確認にも努めている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日午後のお茶には、牛乳を飲んでいただいている。又、食物繊維も適宜摂取していただいている。又、ホール内の散歩、戸外の散歩も楽しんでいただいている。毎日沢山の水分を摂取していただくように工夫している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人の出来る力を尊重し、出来る限り自力で、ブラッシングをしていただき、時々点検をするようにしている。個人のレベルを尊重し、全介助対応の方もいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分量を把握するように努力し個別支援をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行い、早期対応に努めている。又、利用者及び家族に同意を頂き、職員共にインフルエンザ予防注射を受けている。ノロウイルス対策として、調理器具の熱湯消毒、食材の加熱処理、床をタケックスでのモップかけ、うがい手洗い、ペーパータオルを使用する等、予防も徹底している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所水回りの清潔・衛生を保つよう、職員で取り決めて、実行している。新鮮で安全な食材を使用する為、毎日買い物に出かけたり、配達をしてもらい、なるべく買いだめをしないようにしている。又、冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁にしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	昼間は玄関を開けるように心掛け、近所の人たちとふれあいが出られる様に配慮している。玄関前には、ベンチを置き訪問者と気軽に会話ができる環境にしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光はなく、季節の花を飾ったり、壁には利用者様と職員と一緒に作った手芸品などを飾り、喜んでもらっている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人くつろいだり、玄関前のベンチを利用して外を眺めたりされている。ソファの位置は、他者の視線が気にならないように配慮している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはホームで準備した家具は置かず、本人の馴染みの物を置き、勝手に移動したりしないで好きな空間を演出できるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋の温度管理・換気には気をつけている。食堂等外気温の差が大きすぎないようにしている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁には手すり、浴室には手すり・浴用椅子など用意している。身体状況に応じ、安全に生活出来るように工夫している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の環境には気を配り、日頃と違う環境には注意・観察を行い混乱・失敗を招かない環境作りに心がけている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前、建物の外回りの花壇の手入れ・水やり等出来る工夫はしている		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆったり明るく、自由な楽しい生活を職員と共に過ごしていけるよう努力しています。食材にこだわり、米は仁多米・野菜は地域の無農薬を利用しています。